

イベント報告

東京農業大学×経堂図書館

猫と農学

～こんなところにも猫がいる～

7月4日土曜日、東京農業大学「食と農」の博物館にて上記イベントを行い、18名の方にご参加いただきました。

「食と農」の博物館副館長であり企画展「猫のすゝめ」の企画者でもある田留健介先生に展示について講演いただき、講演後には田留先生に解説をいただきながら企画展のツアーを行いました。ご参加の皆様、ありがとうございました。

東京農業大学との連携イベントは継続予定です。今後もよろしくお願いします。



展示コーナーのご案内

毎月、異なったテーマに沿って本の紹介をする、展示コーナーを館内に設けています。ご来館の折にはぜひどうぞ。

一般展示

音楽 ～目で見て感じる音の世界～

展示期間：9/18～11/18

ビジネス展示

コミュ力UP！

展示期間：8/21～10/12

展示場所は変動する場合がございます。ご了承ください。
展示場所：ビジネスコーナー付近のブックトラック

経堂図書館 ニュース

本の駅

2026年9・10月号
通巻88号



スポーツの日

2026年10月12日(月)はスポーツの日です。体育の日は？10月10日は？
もともとは昭和39年に東京オリンピックが行われた10月10日を体育の日としていましたが、ハッピーマンデー制度が導入されたことによって、体育の日は第2月曜になりました。その後、体を動かして楽しむ日として令和2年から名称がスポーツの日となりました。

大人のための朗読会

ボランティア団体の朗読による
『大人のための朗読会』を開催しています
※演目は、変更になることもあります。

9/24 (木) 10:30～

「朗読を楽しむ会言の葉」のみなさん

《演目》

「松の花」 山本周五郎

「物件案内」 坂木司

「恐怖の窓」 遠藤周作

10/8 (木) 10:30～

「もくもくの会」のみなさん

《演目》

「未定」

「未定」

本館
です

開催場所：経堂地区会館本館
2階 第三会議室

開場時間：10:15
参加無料、事前申込不要、先着15名までです。
開催が急遽中止・変更になることもあります。

休館日のご案内

9月17日(木)

10月13日(火)～15日(木)

※特別整理期間のため

■Instagram



■ホームページ
(世田谷区立図書館HP内)



世田谷区立経堂図書館

世田谷区宮坂3-1-30

TEL 5451-0071 FAX 5450-1088

イベントのお知らせ

要約からはじめる読書時間

要約サービス「flier (フライヤー)」の使い方を学び、30分間の読書を楽しむイベントです。

日時：9月11日(金) 19:00～20:00
(20分前受付開始)

会場：経堂図書館ビジネスコーナー

定員：20名(申込順)

費用：無料

持ち物：スマートフォンかタブレット
(PC席予約の方は不要)

お問い合わせは経堂図書館まで

要約から
はじめる
読書時間



第2回キョウドウ・ブック・クラブ 短歌ワークショップ

言葉遊びゲームを楽しみながら、
短歌の世界に触れてみませんか？
日時：10月2日(金) 18:30～20:30
(20分前受付開始)

会場：経堂図書館ビジネスコーナー

定員：12名(申込順)

費用：無料

お問い合わせは経堂図書館まで

第2回キョウドウ・ブック・クラブ

短歌ワークショップ

言葉遊びゲームを楽しみながら、
短歌の世界に触れてみませんか？

五七五七七

地域資料の紹介

『世田谷区洪水・内水氾濫 ハザードマップ』

NO IMAGE

編集/世田谷区危機管理部災害対策課
出版/世田谷区危機管理部災害対策課
出版年/2026年
請求記号/GA51

いざという時のために、災害情報は最新のものを確認するようにしましょう。図書館には貸出用だけでなく、配布用のハザードマップもございますのでお気軽にお声掛けください。また、土砂災害用のハザードマップもございます。

はっぴいコーナー

このコーナーでは、世田谷区の障がい者施設で作られた商品、「はっぴいハンドメイド」の紹介をします！

白梅福祉作業所 アクリルたわし

ひとつひとつ手編みで作られているアクリル製のたわしです。かわいい見た目で掃除も楽しくなります！

¥200

図書館員からのおすすめ本

『江戸のスポーツ歴史事典』

谷釜尋徳著 柏書房 2020年【384た】



スポーツはもう江戸の日本に入ってきていた。庶民が夢中になった遊びや仕事は後々スポーツの形として残していく。

江戸に最初に伝わったのは「かけっこ」。当時の日本人の服装は非常に走りにくく飛脚など「走る」職業が多かったためでもある。近代になって今では「リレー」と言われるようになった。冬になると増えるのが「雪合戦」。子どもから大人まで夢中になり、その後ボールを使ったスポーツに変わっていった。

他にどんなスポーツの歴史があったかはこの目で確かめよう。

『我が友、スミス』

石田夏穂著 集英社
2022年【F111】



『別の生きものになりたい』主人公の女性が、筋トレにはまり、ボディビルコンテストに挑む。筋肉を鍛えあげながら、女性としての魅力を磨くよう指導され疑問を感じる。彼女が筋トレをする理由は、他人に評価されるためではなく、主体的に生きるため。大会決勝、彼女がだした答えは…

テーマ：スポーツ

『卓球アンソロジー』

田辺武夫著 近代文藝社 2016年【783. 6た】

NO IMAGE

最近、卓球W杯で張本兄妹が兄妹では初のメダルに輝き、「卓球」の時代が来ています。

「卓球」この言葉が登場するのは明治に入ってからで、夏目漱石がロンドン留学の日記から始まりました。「卓球」は文学の中にも登場します。小説、マンガ、アンネの日記にも卓球は出てきます。また、「ピンポン」という言葉は谷川俊太郎が作った言葉だそうです。井伏鱒二も卓球のことを「ピンポン」と呼んでいたそうです。

「卓球」×「文学」の関係は非常に深くてももしろいです。卓球から見た日本や世界をその目で見てください。

『eスポーツ論ーゲームが体育競技になる日ー』

筧誠一郎著 ゴマブックス
2018年【798か】



eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）に魅せられて20年以上務めた電通を退社し、eスポーツのための会社まで立ち上げた筧誠一郎氏の初期の単行本。サッカーや野球のように技術を競う世界的な大会もあります。その他に地域活性化や高齢者の脳トレなど社会貢献にも活用されたりと、可能性が現在も未知数なところもおもしろい。10年近く前の本ですが、eスポーツとは何？を知るためには最適だと思います。

『あの夏の正解』

早見和真著 新潮社
2021年【783. 7は】



甲子園出場一目の前までやってきた大きな夢が突然絶たれた時、あなたならどうしますか？

2020年5月、コロナ禍の中で甲子園開催中止が決定されました。自身も強豪校での野球経験がある著者が、その夏、強豪校二校の野球部員・指導者たちをいねいに追ったドキュメンタリーです。

もし自分が当事者であれば、いったいどう行動しただろうかと…という問いをもちながら読んでほしい1冊です。

『ふたつのオリンピック

ー東京1964/2020ー』

ロバート・ホワイティング著 玉木正之訳
KADOKAWA 2018年【F0ホ】



1964年東京オリンピックの少し前から軍の仕事で日本に赴任してきたアメリカ人によるルポルタージュ。

この期間の日本の様子は図書やテレビなどの媒体でよく取り上げられています。しかし、日本人の価値観が入っていない視点から見た日本の動き、外国人が体験した日本の様子はとても新鮮な気持ちで読むことができます。